

第7回庄原市斎場再編整備検討委員会 議事録

日 時 平成 25 年 4 月 15 日(月)13:30～15:30

場 所 庄原市役所 5 階 第 1 委員会室

出席委員 野原建一委員 住田鉄也委員 榎 英子委員 貝崎若子委員 藤谷善久委員 堂本時和委員
安川 保委員 徳山副夫委員 後藤信房委員 渡邊耕三委員 佐々木 聖委員
藤原一成委員 武田和仁委員

事務局 矢吹副市長 片山祐子課長 亀山慎也係長 吉岡賢治主事 (市民生活課)

1 開会

事務局 委員の皆さん、お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

＜人事異動に伴う事務局員紹介＞

ただいまの出席委員は 13 名で、半数以上の出席をいただいております。庄原市斎場再編整備検討委員会設置要綱第 6 条第 5 項の会議開催要件を満たしていますので、これより第 7 回の検討委員会を開催したいと思います。

なお、前回 1 月 30 日の第 6 回検討委員会以降、整備計画に時間を要し、第 7 回の検討委員会が延期となってしまったことを報告させていただきます。

この会議は公開となっています。議事内容についても、公表が原則となっていますので、会議の内容については、録音し議事録を作成しますので、ご承知いただくとともに、発言いただく際にはマイクを使用いただくようご協力お願いします。

開会にあたり、野原委員長からあいさつをいただきます。

2 委員長あいさつ

野原委員長 第 7 回の庄原市斎場再編整備検討委員会でございます。前回から時間が空いておりますので、その間の議論の内容等についてご確認いただくことがあろうかと思っております。いずれにしても斎場は庄原市にとってなくてはならない施設ですので、市民の皆様の期待するところも大きいと思っております。ただ、既にあります斎場と上手く調整しながら、新しい斎場をどういう形にしていけばいいのかということで議論が詰まってまいりました。鋭意皆様の努力でまとめていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

3 資料確認 (不備等がないことを確認する。)

4 協議事項

事務局 これから先の進行については、要綱により委員長が議長を努めていただくこととなっておりますので、委員長の方でよろしく申し上げます。

野原委員長 それでは協議事項に従いまして、協議事項 3 の(1)庄原市斎場再編計画(案)について、事務局からご説明をよろしく申し上げます。

(1) 庄原市斎場再編計画(案)について

事務局が庄原市斎場再編計画(案)により説明

事務局 (P. 24 に基づき) これまでの検討委員会において、再編パターンの選定について議論いただきました。その結果、再編パターン 3 を基にした「現存する 7 斎場を、将来的には市全体で庄原エリア 1 箇所、東城エリア 1 箇所、高野エリア 1 箇所の計 3 箇所に集約すること」という意見として取りまとめていただきました。

庄原市としても面積が広大である等の状況を考慮し、再編パターン 3 を基本路線とした再編を行っていきたくと考えております。庄原エリアの庄原市斎場、東城エリアの東城斎場、高野エリアの高野斎場に集約していくという取りまとめでございます。

(P. 25 から P. 28 まで) 再編パターン 3 に基づいて今後の施設整備の方向性を示しております。庄原市斎場は、意見書でもいただいたとおり早急に建替えることとしたいと思えます。東城斎場は、待合や式場など十分な機能がございますので、現状を維持していくことになろうかと思えます。高野斎場は、待合室が狭く必ずしも充実しているとは言えませんが、今後待合機能の充実を図っていきたくと考えています。

(P. 29) これら 3 施設についての炉数がどの程度必要になるかという試算を行っております。P. 11 では今後庄原市全体で炉数が 5 基必要になると試算されました。これを庄原市斎場、東城斎場、高野斎場毎に改めて計算を行ってみますと、庄原エリアでは 2 基と予備炉 1 基、東城エリアでは 1 基と予備炉 1 基、高野エリアでは 1 基が必要であると算出されました。ですので、東城斎場、高野斎場の炉数は現状で対応が可能であろうと思われまます。そして新庄原市斎場には予備炉を含めて 3 基を整備するのが妥当ではないかという見解が得られました。

(P. 30 から P. 33 まで) 庄原市斎場、東城斎場、高野斎場以外の施設を廃止していく時期についてのスケジュール案をいくつか提案させていただきます。スケジュール案 1 では、新庄原市斎場の整備、高野斎場の機能拡張を平成 29 年度までに行い、平成 30 年度から西城斎苑、口和斎場、比和斎場、総領斎場を廃止するものでございます。スケジュール案 2 では、廃止施設を耐用年度に近い時点まで活用していくものでございます。つまり、西城斎苑は平成 34 年度まで、口和斎場は平成 29 年度まで、比和斎場は平成 39 年度まで、総領斎場は平成 44 年度まで活用し、その次年度において廃止いたします。

庄原市では、P. 33 に示す維持管理経費・修繕費の比較等財政的な負担を考慮すると、できるだけ早期に施設の廃止を行うスケジュール案 1 が望ましいと考えています。

ここまでの再編の方向性について皆様のご意見を伺いたくと思えます。

(発言は要点のみ記述)

野原委員長 ありがとうございます。只今、事務局から説明のありました庄原市斎場再編計画(案)について、これまでの皆様のご意見を踏まえながら、再編パターン 3 が望ましいとして選定されたところでございます。アンケート結果では、火葬機能だけでなく待合機能が充実し、葬儀等に対応できる施設が望ましいということでした。また、市の厳しい財政状況を考慮しますと、再編スケジュール案 1 に基づいて進めていくのが良いのではないかという紹介もございました。これらの点については、皆様のご意見頂戴したいと思います。

【質疑・意見交換】

委員 どの候補地にするのが一番肝心だと思いますが、私が色々考えさせてもらう中で、とっぴな事かもしれませんが、斎場の屋根にソーラーを設置しまして売電をしたらどうかと思います。聞いた話ですと工業団地あたりではそれが可能でして、しかもインターチェンジからも近く高野の方も利用できると思います。このような色んなメリットがあると思います。デメリットは住民の合意が必要なことであろうと思いますが、なんとか理解は得られるのではないのでしょうか。

委員 メガソーラーは県有地のものでして、庄原市の持つ土地ではないので難しいと思います。野原委員長 工業用地が新しい用地として良いのではないかと、ソーラーが活用できるのではないかとという意見でございます。ただし、県有地でございますので、市の土地となるとよく考えないといけないと思われまます。今の話は、庄原市斎場の建設地についての議論でございました。

委員 結局、場所の問題になると思います。資料によると篠堂地区ということがあります。現在地で隣接する県の土地を取得してという検討はいかがでしょうか。

事務局 今後候補地を考えていく上で、現在地に隣接する県有地を取得することも可能性もありますし、篠堂地区も一定程度の面積を持った市有地もございます。その他にもいくつか候補地は挙げられると考えています。

野原委員長 問題は、庄原市斎場の場所をどうするか、のようです。そうしますと、再編に関する方向性は事務局から提案のあった内容でご了解いただけたということによろしいでしょうか。

<了解との声>

それでは、以降は庄原市斎場の候補地に議論を絞って進めたいと思いますので、資料9を含む協議事項3の(2)第6回検討委員会での確認事項等について事務局から説明をお願いいたします。

(2) 第6回検討委員会での確認事項等について

事務局が資料9により説明

事務局 前回の検討委員会で新庄原市斎場の場所等について皆様からご意見をいただきましたので、回答をさせていただきます。建設地として一定規模の面積を持った市有地の状況は、庄原エリアに限りますと斎場の建設に必要と思われる5,000㎡以上で、工業団地あるいは篠堂地区が該当いたします。

2点目に、工業団地の候補地としての可能性については、用途として火葬場を建設することに制限はございませんが、今後分譲の可能性のあることを踏まえまして積極的に進めていくのは難しいのではないかと考えられます。

3点目に、中学校前の石塔池付近は候補地としてどうかという質問がございました。こちらには埋蔵文化財が存在する可能性が高いことから、難しいと思われまます。

4点目に、現地建替えの場合の用地取得の可能性です。先程申し上げましたが、隣接する県有地が取得可能として確認しております。

5点目、6点目、7点目は別紙1をご覧ください。まず、現地建替えの場合と新候補地とでどの程度経費が違ってくるのかという質問がございました。現地建替えの場合に加え、民有地の田を購入した場合、篠堂地区の市有地を活用した場合として試算いたしました。

次に、これまでの議論でありました式場の有無については、式場なし、家族葬が出来る程度の式場、大規模な式場の3パターンを想定し、試算しています。そして、都市計画区域との関係では、現地建替えの場合が区域内ということで、建設にあたっての手続きに時間を要することとなります。（詳細は別紙1のとおり）。

8点目は、現地建替えの場合の周辺施設との関係です。県立広島大学からは200m以上の距離がありますが、国営備北丘陵公園からは200m以内の位置にあるため、管理者と要協議の上進めていく必要があります。最終的には、市が公衆衛生上問題なしとして判断すれば設置は可能であります。

9点目は、安芸高田市葬祭場の建設経緯と平面図を別紙2に示しています。

その他参考資料として、式場を整備するかどうかの資料として、民間式場と公営式場の料金比較、市内各地地域の葬祭業者数を添付しております。

以上の点を踏まえながら、皆様の意見を伺いたいと思います。

（発言は要点のみ記述）

野原委員長 資料9に基づきまして、前回委員会の確認事項について調べていただきました。先程の庄原市斎場の候補地については3案出ておりますが、いかがでしょうか。

【質疑・意見交換】

委員 篠堂地区というのは災害地でしょうか。あちらは平坦地であったでしょうか。

事務局 完全な平坦地ではありませんが、災害のあった場所で市が取得した土地がございます。

委員 ただしあの土地は砂防施設となっているので県との協議で時間がかかるかもしれません。

委員 工業団地の可能性は薄いということで、概算工事費の試算では考えられてないと思いますが、単価的には篠堂地区と同じ程度と考えていいのでしょうか。

事務局 そうですね。進入路と用地買収費がかからないという点では同じくらいになるだろうと思われま。

委員 それと、石塔池付近、昔の斎場のあったエリアにおいて古墳群があるということで想定されるのですが、実際は教育委員会で把握しているものがありましたか。

事務局 実際に分布されているとのことで、確認しております。

委員 こういう場合には経費と時間がかかるでしょうし、難しいと思われま。

委員 候補地2や候補地3というのは、具体的な場所は想定されていますか。

事務局 ここでは、候補地3は篠堂地区を仮定した場合です。候補地2は場所を特定していませんが、庄原地域で5,000㎡程度の田を購入した場合でございます。

委員 現在の庄原市斎場の進入路は整備されてますか。

委員 県大通り線から入る道があります。

野原委員長 今回の概算工事費ですと、進入路は拡幅の必要があるということでしょうか。

委員 その必要はあると思われま。

野原委員長 ここまでですと、候補地としては現在地か工業団地が有力ではないかということがございます。他にご意見いかがでしょうか。

委員 ご存知のとおり、現在の庄原市斎場は老朽化が著しいので、そこを5年間造成や工事しながらというのは可能なのでしょうか。この場合、別の場所に新たに作って同時進行とい

うのが非常にスムーズのように思いますが。

野原委員長 確かに現地ということになると、その点は考えていく必要があるように思いますが、いかがでしょうか。

委員 式場は小規模なものでよいのではないのでしょうか、待合所を兼ねたようなもので。大規模な式場は、業者もありますし必要ないと思います。

委員 ただし、アンケート結果では、同じ場所で葬儀まで行いたいという声も多くあります。

委員 三次の場合でも、あれだけ遠いにも関わらず作ってませんでしたし、参考になると思います。

委員 東城のような式場と民間の式場を比較した場合、料金に大きな差が出てくるとありました。実際、火葬件数のうちのどのくらいの方が式場を利用されるのでしょうか。

委員 火葬利用者の90%が利用されていると思います。

委員 安芸高田市の斎場が、民間業者2社との協議の話がついたということですが、どういった経緯でしょうか。

事務局 まだ、十分に把握しておりませんので調べておきます。

委員 それと先程の話に戻りますが、現在地を使う場合に、県有地を取得するのであれば、造成してそちらに配置ということもできるのではないのでしょうか。

委員 むしろ、そうでないと現在の炉を止めて整備することにはならないと思います。先に周辺整備してから、施設整備にとりかかると。

野原委員長 他にご意見いかがでしょうか。今のところ、場所としては候補地1あるいは候補地3に意見が集約されるのではないかと思います。工業団地ですと、分譲の可能性があるということで理解が得られるのかという問題もあります。

委員 現在地がうまくいくのであれば、その方が早いのかなとも思います。

委員 皆様の意見を聞いておりますと、現在地を造成して広げるのも良いですし、工業団地が近くて良いですし、と迷っているところです。それと式場の有る無しについては、まだまだ家庭での葬儀も多いですし、市内にも業者がありますので、式場は無くても良いのかなと思っていますが、こちらも迷っております。

委員 工事がスムーズに進められる可能性という意味では工業団地かとも思いますが、これは議論を重ねないと難しいと思います。

委員 住民の理解が得られやすいのが現在地だと思います。工業団地はなかなかそうはいかないと思います。

委員 これまでありましたように、現在地で造成を広げて建設しながら、最終的に現施設を廃止していくというのも可能なようです。また、確かに進入路が狭いですが、造成工事側からもしっかりした進入路は確保できる法面ですので、候補地1は実現可能であると思います。

野原委員長 そうしますと、候補地1あるいは候補地3に絞りまして、議論を進めさせていただきたいと考えております。

建設期間については更に事務局でお調べいただきたいと思います。先程の話ですと、期間が短縮されるのか、土地の造成にかかる期間等も含めて確認したいと思います。また、新しい安芸高田市の葬祭場も気になるのでございますので、できれば見学を行いまして見聞を広めたいと思っております。事務局で検討願えますでしょうか。その他、事務局から何かありますでしょうか。

事務局 皆様の意見を聞かせていただきましたが、今回の説明の背景を改めてお伝えしておきます。

場所につきまして篠堂地区というのがありましたが、現在地が市の端にあるということで東部や北部方面のことを踏まえると比較的に中心に近く、まとまった面積のある市有地として篠堂地区があるということで候補地として挙げさせていただきました。

また、工業団地については、引き合いが2件ほどあっておりまして、5月末までには1件は方向性がはっきりすると思います。確定しておりませんので動向も踏まえながらですが、積極的に工業団地を斎場にするというのは難しいと思っております。

式場についてですが、規模の大きさによって駐車場の面積が大きく異なってくると考えられ、その分事業費も増大するものと予測されます。ただし、市内には民間業者もおられますので整備については慎重に検討する必要があります。この時に、東城地域では東城斎場の比較的安い葬儀費用と比較すると、その分格差が生じてくるという問題もございます。神石高原町にも立派な式場、府中市上下町にもあります。これらについては、民間の業者がおられなかったために、要望に応じて整備したことと思われま。

工事期間のことですが、まず今年度計画の方向性を決定するのに1年間かかると思います。用地取得は民間に求めるとなると2~3年は時間がかかると思いますが、現地や市有地の場合には、比較的短くて済むと思います。それから完成した計画を市民の皆様にご理解いただいて、設計、造成工事、建設工事となると4~5年程度になろうかと思えます。建物工事自体は1年間くらいであると思いますので、新しく取得し造成した土地に建てながら、工事騒音はあるでしょうが、現在の施設を使いながらというのも可能だと思っております。

これらの事を踏まえまして、また次回ご議論いただきたいと思えます。

野原委員長 それでは、次回は安芸高田市の葬祭場の視察もさせてもらいながら、より議論を深めていきたいと考えております。

事務局 日程については5月中旬程度を目標に安芸高田市葬祭場の視察について、調整したいと考えております。

(3)その他

野原委員長 その他について、委員の皆様から何かございませんでしょうか？

<意見なし>

野原委員長 ではまたご案内の程、よろしく申し上げます。本日は長時間ご議論いただきましてありがとうございました。

以上、議事の経過ならびにその結果を明確にするため、本議事録を作成し、議事録署名人が次に署名捺印する。

平成25年4月15日

議事録署名人 野原 健 一

議事録署名人 住田 鉄 也